

ユニバーサルデザインを知ろう

ユニバーサルデザインってなに？

子どもやお年寄り、男女、障がいのある人やそうでない人、日本人や外国の人といった違いに関係なく、すべての人が使いやすいように、

「はじめから考えてつくる」

ことです。

ユニバーサルデザインの7つのきまり

① 公平性

どんな人でも公平に、同じように使えること。
自動ドアやエレベーターは、みんなが同じ方法で利用でき、身体に負担がかかることがない。



② 柔軟性

どんな人にも合った使い方が選択できること。
高さ違いで複数のボタンがある自動販売機や段違いで設置された手すりは、あらゆる人に応じた使い方ができる。



③ 単純性

使い方が簡単で分かりやすいこと。
開け方が書いてあるプルタブ缶やシャンプーのボトルの側面にある凹凸など、使ったことがない人でもすぐ分かる。



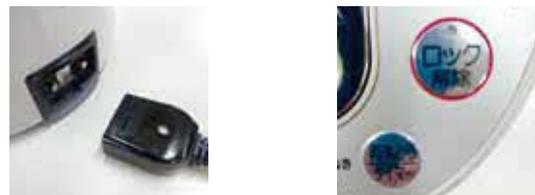
④ 分かりやすさ

必要な情報が簡単に理解できること。
点字や凹凸で分かる案内板や、牛乳パックの開け口の方向が分かるへこみは、必要な情報が、分かりやすい。



⑤ 安全性

ミスや危険にならず、安心して使えること。
マグネット式の電源コードや、ロック付きの電気ポットは、事故や危険につながりにくく、安心して使うことができる。



⑥ 省体力

無理な姿勢を取ることなく、楽に利用できること。
センサー式の蛇口や車いす対応自動販売機は、少ない動きで使うことができる。



⑦ スペース確保

使うために適切な広さと幅があること。
バリアフリートイレや幅が広い改札は車いすや大きな荷物を持った人など、誰でも余裕を持って使うことができる。

